

古代アメリカ学会 第14回西日本部会研究懇談会のお知らせ

2023年度の第一回研究懇談会を以下の要領で開催します。久しぶりに対面での研究懇談会になりますので、ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心をお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。今回は事前申し込みが必要です。下記のQRコードまたはURLから5月26日（金）正午までに申し込みの上、当日は正門守衛室でご記帳の上入構してください。

- ・参加申し込みQRコード



- ・参加申し込み URL : <https://forms.gle/TsmJbXB5zGy6k4qz5>

〔日時〕 2023年5月27日（土）13:30～15:10

- ・開会あいさつ 13:30～13:40
- ・発表者による報告：南智博（南山大学大学院博士課程）13:40～14:40
- ・コメンテーターによるコメントおよび質疑応答 14:40～15:10
コメンテーター：大平秀一（東海大学）

〔会場〕 関西外国語大学中宮キャンパス7号館3階7310教室

〔主催〕 古代アメリカ学会

〔連絡先〕 西日本部会研究懇談会世話人・土井正樹 (huarpa*kansaignaidai.ac.jp)

古代アメリカ学会事務局 (info*americacantigua.org)

(上記アドレスの*を@に換えて下さい)

〔研究懇談会概要〕

今回の研究懇談会は「若手研究者による研究の紹介 インカ帝国高地における大規模遺跡の建築・空間構造からミクロな視点を目指して」と題し、最近修士論文を提出された若手研究者・南智博会員(南山大学大学院博士課程)にその研究成果についてお話しいただきます。開催時点では、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類相当から5類に見直されることとなり、新型コロナ後の研究活動を模索すべく、久しぶりに対面での開催といたしますが、コメンテーターにはオンラインでご参加いただく形式になります。ご参加いただく皆様には会場で、活発な議論と意見交換をしていただければ幸いです。

〔発表要旨〕

南智博（南山大学大学院博士課程）

「インカ帝国高地における大規模遺跡の建築・空間構造からミクロな視点を目指して」

本発表は、発表者が2022年度提出の修士論文の内容を取り上げるとともに、今後の研究課題について述べ、意見を賜ることを目的とする。

発表者は博士前期課程に入学時、新型コロナウイルスにより渡航が困難であったため、対象であるインカ帝国の研究を進めるにあたって、インカ帝国高地の大規模遺跡の建築や図面をデータとして文献を参照することで、その空間や建築の構造を明らかにすることを試みた。

具体的には王領に分類されるオリヤンタイタンボ、チンチェロ、ユカイ、行政センターに分類されるワヌコ・パンパ、パリア・ラ・ビエハ、トメバンバを取り扱い、王領と行政センターのそれぞれを順にパチャクティ王、トパ・インカ王、ワイナ・カパック王に対応させる形で比較検討を行った。さらに、王領と行政センターの間の構造的差異の理由について、インカの大きな祭りであるシトゥア祭に関する記録を手がかりとして考察した。

今後の研究では博士前期課程で行ったようなマクロな視点でインカ帝国をとらえるのではなく、1つの遺跡に焦点を当てて詳細なデータを得ることを考えており、現時点での方向性を発表した上で、方法論、研究の方向性、対象遺跡等について参加者より助言を頂く。

以上